

図書館仕事紹介 ～機関リポジトリ編～

図書館には、みなさんが利用する図書を登録・整理したり、貸出サービスを行ったりと色々な仕事があります。今回はその中から、機関リポジトリの登録についてご紹介します。

🔗 機関リポジトリとは？

機関内で生産された教育研究成果物(学術論文や学術資料など)を、電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で発信するシステムです。成果物をWeb上に公開するだけでなく、目録情報の付加や、他のサイトとの連携機能など応用性と発展性を備えた仕組みです。



機関リポジトリを活用するメリットは？

- 学術情報専門の検索サイト等を通じて、教育研究成果物をより多くの人へ伝達することが可能となり、研究の価値が高まることが期待されます。
- 広く公開されることで、他分野から反応が来るなど研究活動の範囲が広がります。
- 電子的資料の保存庫として利用できます。

研究成果物が機関リポジトリに登録されるまで

機関リポジトリを活用してね!



1 文献捕捉

データベース等を使い機関内の研究者が作成した論文などを調査します。
あるいは、研究者から直接情報提供を受ける場合もあります。



2 著作権確認

論文などのコンテンツには著作権が存在します。著者に権利がある場合もあれば、出版社や学会が保持している場合もあり、権利者によってポリシーが異なるので、掲載の可否や条件について正確に把握しなければなりません。



3 著者への確認

著作権の確認後、著者に機関リポジトリへの登録の許諾とコンテンツ提供の依頼を行います。登録が初めての著者に対しては研究室に向くなどして、機関リポジトリや著作権について詳しい説明を行います。



4 リポジトリに登録

提供されたコンテンツを機関リポジトリへ登録します。タイトル、著者名その他、キーワードや必要な権利表示、リンクなどを入力し登録完了です。



内藤先生がコンテンツの提供をご快諾くださいました。

広島県大学共同 リポジトリ(HARP)について

広島工業大学の機関リポジトリは広島県大学共同リポジトリ(HARP)の中にあります。HARPは広島県大学図書館協議会の運営する機関リポジトリで、2008年4月にスタートしました。国内の共同運営の機関リポジトリとしては早くから運用され、他大学の図書館から注目を集めました。



図書館では、
コンテンツを受付けています。
機関リポジトリへ掲載可能な
教育研究成果物がありましたら、
ぜひご連絡ください。



URL:<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

環境学部地球環境学科の内藤望先生に、機関リポジトリへ登録する論文の提供と取材にご協力いただきました。先生は地球温暖化の影響で起こる山岳氷河の変動について研究されており、本年度の日本雪氷学会論文賞を共同受賞されています。先生の研究についてお話を伺いました。

内藤先生の研究のお話 ～身近だが実は謎が多いH₂O～

環境学部 地球環境学科 内藤 望先生

氷河の変動で何が起こるのか?例えば、氷河の後退により融けた水が、氷河に運ばれ堆積した土や岩などによる自然のダムにせき止められ、氷河湖が形成されます。そのダム壁面内に氷が凍結している状態ならよいのですが、融けてしまったときは壁の強度が弱くなり、氷河湖の水圧が高まったり大波が越流したりすると、ダムが決壊して洪水が起きる危険が高まります。

そういった被害を小さくするためにも雪氷、氷河のメカニズムを研究していきたいと話してくださいました。

先生は、実際にヒマラヤやパタゴニアなどの山岳地へ行き、氷河の後退や流動速度などを調査されています。氷河は、長年にわたって融

け残った積雪が100m以上もの厚さになり、特にその下層の氷が高压を受けて変形することによって流動します。また氷河湖の水が底部に浸透しているような場合には、地面の上を氷が滑ることも起きています。こういった氷の動きと力の大きさとの関係は、実はまだ完全には解決していません。氷はきわめて身近な物質なのですが、その基本的な力学的性質さえ、一部に謎が残っているのです。氷河で見られる氷の結晶状態と高压条件、そして長時間スケールにわたる現象を、実験室で再現することはできず、実際の氷河で地道に観測データを蓄積して分析していくしかないのだそうです。

